

試に向けた指導・支援を考える

P.4 課題整理

2025年度大学入試の情報整理

ベネッセコーポレーション 教育情報センター センター長 谷本祐一郎

P.7 教科指導

2025年度大学入試で求められる力と教科指導

全体 ベネッセコーポレーション 進研模試 編集長 三宅悠介

国語 岡山県立岡山城東高校 田中誠一郎

歴史総合 愛知県立大府高校 野々山 新

情報I 兵庫県・私立雲雀丘学園中学校・高校 林 宏樹



P.14 進路指導

2025年度大学入試に向けた進路指導のポイント

北海道札幌北高校 進路指導部長 高桑知哉


福井県立若狭高校 キャリアサポートセンター室長 小坂康之

奈良県・私立西大和学園中学校・高校 高校1年生担任 梨子田 喬



姿、教師の役割

③ 国公立大学を年内入試で目指す生徒が多い学校のケース


生徒 BEFORE 

拡大した年内入試に対して
安易な進路選択を行う姿勢
から

学校現場でよく聞く声 (*3)

- 進路選びについて生徒の「こだわり」が薄い。大学選択は「行きたい」より「入れる」。指定校や総合型での選択となる。
- 学習でのつまずきが多く、分からない部分はリセットされてしまう。

EMPOWERMENT


生徒 AFTER 

自分が生かせる志望先を探索・研究し、こだわりを持った進路選択ができる状態に。

指導の重点は
「こだわり」を持った選択を促す進路支援。

指導の重点は
学習環境担保で生徒の「分からない」を解消。

④ 大学・専門学校・就職など、生徒が幅広く希望する学校のケース


生徒 BEFORE 

これまでの経験によって自己肯定感が低い状態から

学校現場でよく聞く声 (*3)

- 生徒の基礎学力と自己肯定感を高めたい。「やればできる」を実感させたい。
- 年内入試に伴う小論文、志望理由書作成の指導・対策に手間と時間がかかる。

EMPOWERMENT

生徒 AFTER 

自分自身の可能性に気づき、進路・学習に前向きになれる状態に。

指導の重点は
前向きな声かけで生徒の自己肯定感を高め続ける。

指導の重点は
義務教育範囲の学び直しから進路対応力育成まで。

3年生0学期
目前!


2025年度大学入

生徒の意識を受験生へと切り替える、いわゆる3年生0学期が近づいてきました。当事者である現高校2年生が受験する2025年度大学入試は、新学習指導要領に対応した入試の実施初年度となります。大幅な改訂となった今回の学習指導要領の影響を最も大きく受ける入試が大学入学共通テストですが、同テストは国立・公立大学の一般選抜や私立大学の同テスト利用入試だけでなく、年内入試(*1)における学力試験として課す大学も少なくありません。もちろん、国立・公立大学の個別学力検査や私立大学の個別入試も新学習指導要領に対応した内容になりますから、各校には、25年度入試に向けた今後1年間の生徒への指導・支援のあり方や計画をしっかりと考え、それらを実現・実行していくことが求められます。とは言え、下図のように、国立・公立大学志望者と私立大学志望者、一般選抜希望者と年内入試希望者、それぞれどちらを志望・希望する生徒が多いかなどによって、各校の生徒の課題や目指す姿、教師に求められる役割も異なるものと思います(下図は、多くの読者からご好評をいただいた、本誌8月号の特集のP.8に掲載した図8に、一般選抜で大学進学を目指す生徒が多い学校のケース①を加えた図です)。そうした各校の実情に合った指導・支援のあり方を考える際にお役立ていただくべく、本特集を企画しました。25年度入試に向けた指導・支援は、下図のAFTERの生徒の姿を実現するとともに、社会に出てからも生きる資質・能力を生徒に育成する大きな好機となるはずです。年内入試支援をテーマとした本誌8月号の特集とともに、今号の本特集がその一助になれば幸いです。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

学校・生徒の状況によって異なる教師の役割 希望進路ケース(*2)別 生徒の課題と目指す


① 選抜性の高い難関大学を一般選抜で目指す生徒が多い学校のケース

生徒
BEFORE 
新課程・新入試の量的変化
に対して、受動的に学習する
姿勢から

学校現場でよく聞く声(*3)

- 過去問題のない新課程入試に伴い、高い目標を目指そうとしない。
- 次世代リーダーの基礎力にもつながる探究の取り組みだが、通り一遍のもので終わっている。


EMPOWERMENT

生徒
AFTER 
強み・弱みの把握に基づき、
主体的に計画を立て、実行
できる姿勢に。

指導の重点は
学力のみならず粘り強さまで育む。

指導の重点は
声かけの継続で生徒の背中を押し続ける。


② 国公立大学を一般選抜・年内入試で目指す生徒が多い学校のケース

生徒
BEFORE 
年内入試希望者が増加して
いる状況下で、安易に志望
を下げてしまう姿勢から

学校現場でよく聞く声(*3)

- 志望校へのこだわりが弱く、教師・保護者の認める大学へという志向が強い。
- 受け身的な学習で伸び悩む生徒をうまくサポートできない。

EMPOWERMENT

生徒
AFTER 
希望する進路実現のために
学びに向かう姿勢に。

指導の重点は
「自分軸」が貫かれた志望動機づくり。

指導の重点は
一般選抜・年内入試に応じた個別最適へと導く。

*1 総合型選抜(旧AO入試)と学校推薦型選抜を指す。9~12月の年内に試験が実施され、合否が決まること多い両選抜を、ここでは「年内入試」と総称する。

*2 ケース分けはあくまで例であり、複数ケースにまたがる学校等があるものと考えます。

*3 入試に関連する声を抜粋。

2025年度大学入試の情報整理

2025年度大学入試は、新学習指導要領に対応した最初の入試であるため、前年度の入試からの変更点が多く、情報の整理・把握が欠かせない。ここでは、25年度入試のポイントを解説する。

大学入学共通テストの変更点

まずは2025年度大学入学共通テスト（以下、25年度共通テスト）について見ていきます。従来からの出題教科の中で大きな変化があるのが、国語と地理歴史・公民、そして数学です（図1）。

◎**国語** 25年度共通テストから、実用的な文章の大問が1問追加され、近代的な文章は3問で110点、古典は以降の文章は2問で110点、古典は2問で90点となります。試験時間は現行の共通テストよりも10分長い90分です。試作問題では、生徒の言語活動の場面が設定され、複数の文章・図表・グラフを解釈する力や、それらを関連づけて考察する力が求められました。大学入試センターは、問題作成方針に関する検討の方向性として、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた問

題を検討するとしており、スピーディな読解力と多様なジャンルの文章への対応力が問われることになりそうです。

◎**地理歴史・公民** 25年度共通テストからは、6つの出題科目より最大2科目を選択しますが、『地理総合／歴史総合／公共』の選択を不可としている大学・学部がある点には、注意が必要です。特に難関国立大、ブロック大では選択不可としている大学・学部が多くあります（図2）。そのため、『地理総合／歴史総合／公共』以外の出題科目、つまり『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から選択した方が、受験大学の選択肢が広がります。

共通テストで『地理総合／歴史総合／公共』を選択した場合、選択解答した問題の出題範囲の科目と同一名称を含有

む科目の組み合わせを選択することはできない（例えば、『地理総合／歴史総合／公共』で『歴史総合』と『公共』を選択した場合、もう1科目として『歴史総合、日本史探究（または世界史探究）』を選択することはできない）ことにも注意が必要です。『地理総合／歴史総合／公共』の選択と、他の科目との組み合わせの可否は、ウェブサイト『VIEWnext ONLINE』で確認できます（P.6参照）。

◎**数学** 数学②がポイントとなります。現行の共通テストに存在する『数学II』『数学II・数学B』は廃止され、『数学II、数学B、数学C』となり、試験時間は現行の共通テストよりも10分延びて、数学①と同じ70分となります。数学②の『数学II、数学B、数学C』のうち、『数学B』については2項目の内容（数列、統計的な推測）、『数学C』



「解説」
ベネッセコーポレーション
教育情報センター センター長
谷本 祐一郎
たにもと・ゆういちろう

については2項目の内容（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）に対応した出題とし、4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答します。そのため、文系の受験者も、少なくとも『数学C』の1大問を解答することが求められます。

なお、個別試験で『数学B』か『数学C』を課す国公立大文系学部のうち、出題範囲を数列（『数学B』）とベクトル（『数学C』）としている募集単位は約75%となっています（図3）。そのため文系学部を志望する生徒の多くが、個別学力検査も共通テストで選択する『数学B』『数学C』の分野で受験することが可能となる見通しです。

図1 2025年度大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等(予告)

教科	グループ	出題科目	出題方法 (出題範囲、出題科目選択の方法等) 出題範囲について特記がない場合、出題科目名に含まれる 学習指導要領の科目の内容を総合した出題範囲とする。	試験時間 (配点)
国語		『国語』	『現代の国語』及び『言語文化』を出題範囲とし、近代以降の文章及び古典(古文、漢文)を出題する。	90分(200点)
地理歴史		『地理総合、地理探究』 『歴史総合、日本史探究』 『歴史総合、世界史探究』 『公共、倫理』 『公共、政治・経済』 『地理総合/歴史総合/公共』	<ul style="list-style-type: none"> 左記出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 (a)の『地理総合/歴史総合/公共』は、『地理総合』、『歴史総合』及び『公共』の3つを出題範囲とし、そのうち2つを選択解答する(配点は各50点)。 2科目を選択する場合、以下の組み合わせを選択することはできない。 (b)のうちから2科目を選択する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組み合わせを選択することはできない。 (b)のうちから1科目及び(a)を選択する場合(b)については、(a)で選択解答するものと同一名称を含む科目を選択することはできない。 受験する科目数は出願時に申し出ること。 	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分)(200点)
公民		(a): 必修科目を組み合わせた出題科目 (b): 必修科目と選択科目を組み合わせた出題科目		
数学	①	『数学I、数学A』 『数学I』	<ul style="list-style-type: none"> 左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。 『数学A』については、図形の性質、場合の数と確率の2項目に対応した出題とし、すべてを解答する。 	70分(100点)
	②	『数学II、数学B、数学C』	<ul style="list-style-type: none"> 『数学B』及び『数学C』については、数列(『数学B』)、統計的な推測(『数学B』)、ベクトル(『数学C』)及び平面上の曲線と複素数平面(『数学C』)の4項目に対応した出題とし、4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答する。 	70分(100点)
理科		『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』	<ul style="list-style-type: none"> 左記出題科目の5科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』は、『物理基礎』、『化学基礎』、『生物基礎』及び『地学基礎』の4つを出題範囲とし、そのうち2つを選択解答する(配点は各50点)。 受験する科目数は出願時に申し出ること。 	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分)(200点)
外国語		『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	<ul style="list-style-type: none"> 左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 『英語』は『英語コミュニケーションI』、『英語コミュニケーションII』及び『論理・表現I』を出題範囲とし、『英語』及び『リスニング』を出題する。受験者は、原則としてその両方を受験する。その他の科目については、『英語』に準じる出題範囲とし、『筆記』を出題する。 科目選択にあたり、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』の問題冊子の配布を希望する場合は、出願時に申し出ること。 	『英語』 【リーディング】80分(100点) 【リスニング】60分(うち解答時間30分)(100点) 『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』 【筆記】80分(200点)
情報		『情報I』		60分(100点)

試験時間は、現行の80分から10分延長。分野別の大問数及び配点は、近代以降の文章が3問110点、古典が2問90点(古文・漢文各45点)。

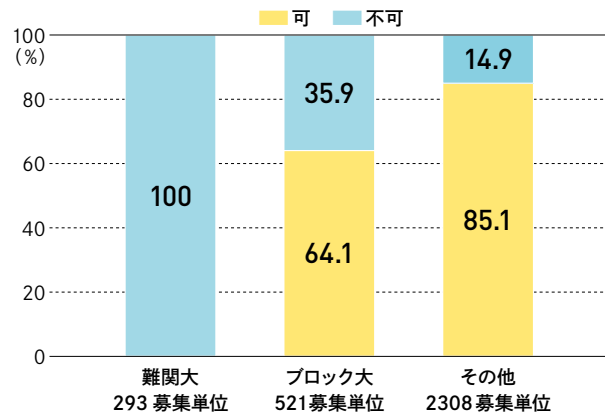
試作問題の配点は、総合科目が25点、探究科目が75点だった。

出題範囲に『数学C』が含まれ、選択解答数が現行の2項目から3項目へ増加。試験時間も現行の60分から10分延長。

新設科目となる『情報I』の試験時間は60分。

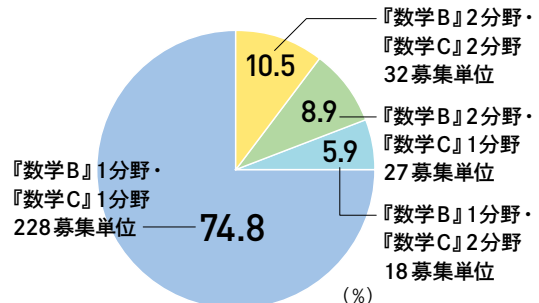
※大学入試センター公表の資料を基に編集部で作成。

図2 共通テストにおける『地理総合/歴史総合/公共』選択の可否(国公立大学一般選抜)



※難関大は、北海道大、東北大、東京工業大、東京大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大の10大学。ブロック大は、筑波大、千葉大、横浜国立大、新潟大、金沢大、岡山大、広島大、熊本大、東京都立大、大阪公立大の10大学。
※2023年7月上旬時点の大学公表情報(3122募集単位)を基に編集部で作成。

図3 文系学部の個別試験で数学を課す際の『数学B』『数学C』の試験範囲(国公立大学一般選抜)



※文系学部の、個別試験で『数学B』、『数学C』を課し、『数学B』は数列、統計的な推測、『数学C』はベクトル、平面上の曲線と複素数平面の中から出題すると公表した募集単位の内訳。

※『数学B』2分野は数列、統計的な推測、『数学B』1分野は数列、『数学C』2分野はベクトル、平面上の曲線と複素数平面、『数学C』1分野はベクトル。2分野と1分野が選択可能な場合は2分野で集計。

※2023年7月上旬時点の大学公表情報(305募集単位)を基に編集部で作成。

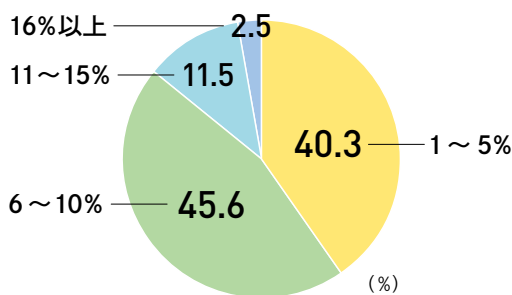
新たに設定された『情報Ⅰ』について

25年度共通テストからは、新たに『情報Ⅰ』が出題科目として設定されます。23年7月までの時点で、国立大学の一般選抜の募集単位のうち、約95%が共通テストの『情報Ⅰ』を必須としています（公立大学では約43%の募集単位が必須）。共通テストにおける情報の配点割合は、6〜10%とする募集単位が多いです（図4）。募集単位によっては、地理歴史・公民や理科と同じような配点割合となっているため、十分な対策が必要です。

『情報Ⅰ』は、「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の4項目で構成されますが、試作問題では「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の2項目が、配点100点満点中77点を占めました。

22年度に全国の高校生が受検した、『情報Ⅰ』を出題範囲とするベネッセのアセスメント「Pプラス」の結果の分析によると、「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」は、ほかの項目に比

図4 共通テストにおける情報の配点割合



※情報を必須で課し、該当情報公表が確認された653募集単位を分析（大学・学部・学科・日程・方式）。

※次の大学の該当募集単位は集計外（東北大：数学、理科、英語、情報の成績は1段階選抜のみ利用、徳島大：情報は点数化しない、高知大：情報はボーダーライン上でのみ加味する、九州大：6教科受験のうち、情報以外の5教科から高得点の2教科で可否を判定）

※2023年7月上旬時点の大学公表情報（1438募集単位）を基に編集部で作成。

べて正答率が低くなっていました。そのため、それらは今後、特に力を入れて対策すべき項目と言えます。（『情報Ⅰ』の授業実践と入試対応について、『VIEW next』高校版8月号P.38〜41で解説しています）

25年度共通テストでは、旧教育課程履修者に配慮した経過措置が地理歴史・公民、数学、情報で講じられます。これまでの経過措置と比べても、25年度入試では、得点調整も含めて既卒生が不利にならないような準備が行われています。

なお、大学入試センターが発表した

時間割（イメージ）では、1日目、2日目いずれの試験終了時間も、現行の共通テストより10分ずつ後ろ倒しになっています。体力・集中力が一層求められる試験となるため、模擬試験などを利用して、2日間の時間の感覚を身につけておくことが大切です。

各大学の25年度入試の出題科目の公表も進んでいます。特に大きな変更と

図5 国公立大学の25年度入試における出題教科・科目の公表状況

大学名	共通テスト			個別試験			
	『情報Ⅰ』		地理歴史・公民	情報	国語	数学	地理歴史
	必須か	配点公表	選択科目	課すか	試験範囲		
東京大	●		×		●	●	
東京医科歯科大	●	●	▲				
東京外国語大	○	●	×				

【共通テストの各欄の記号について】

『情報Ⅰ』は必須か

● 全募集単位が必須

○ 必須の募集単位がある

▲ 必須の募集単位がない

『情報Ⅰ』の配点公表

● 公表されている募集単位がある

★ 配点しない（配点に条件がある）

地理歴史・公民の選択科目

『地理総合/歴史総合/公共』の

● 選択を認める

▲ 選択を認めない募集単位がある

× 選択を認めない

※各大学の公表資料を基に編集部で作成。

●ウェブサイト『VIEW next ONLINE』で一覧化した情報を公開

共通テストにおける『情報Ⅰ』の取り扱いや地理歴史・公民の選択科目、個別試験における国語、数学（文系学部）の試験範囲などを一覧にして整理しています。



<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article17143/>

なる地理歴史・公民の選択科目と『情報Ⅰ』の取り扱いについては、生徒の出願大学の検討にも影響を及ぼすため、早めの情報収集が求められます。ベネッセ教育情報センターでは、25年度入試の各大学の公表状況（図5）を随時更新し、公開していますので、ぜひご確認ください。